



### ●研究主題設定の理由

江東区立幼稚園では今年度より親子登園に対して有償ボランティア制度が始まり、地域の未就園児親子に対して、幼稚園でどのように支援していくか大きな課題の一つとなっている。

本園では、親子登園において幼稚園は未就園児が集う場を提供するだけに留まらず、在園児にとっても意味のあるものにしていくことの可能性に着目した。そこで未就園児と在園児、双方における豊かな育ちのための親子登園の在り方を研究するにいたった。

### ●研究の内容

- ・地域の未就園児親子に対してどのように支援していくか。
- ・在園児にとって意味のある親子登園にするにはどうしたらよいか。
- ・それぞれのこどもたちの豊かな育ちを促すためにどのような保育の在り方がよいか。

### ●研究の方法

- ・未就園児の親の悩みや課題について本園の実態を把握し、支援の内容、方法を探る。  
(未就園児保護者、在園児保護者へのアンケート調査等)
- ・親子登園を通して未就園児、在園児に育つものは何か、また未就園児保護者にとってはどのような教育的な意味があるのかを記録、分析しながら探る。



江東区立豊洲幼稚園

〒135-0061 江東区豊洲4-4-4

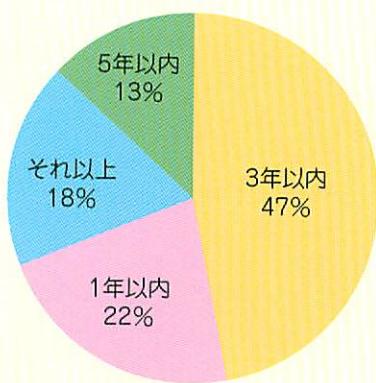
Tel 03-3531-9272 E-mail : toyosu-yo@mx.koto.ed.jp

URL : <http://www.koto.ed.jp/toyosu-yo/>

# 本園における親子登園参加者の実態

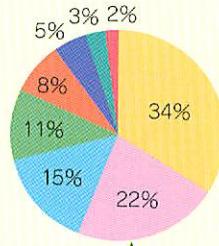
～アンケート調査をもとに～ 調査人数：90名（2、3歳児保護者）  
調査年月：2008年5月

## ●豊洲地区に在住してどのくらいですか？



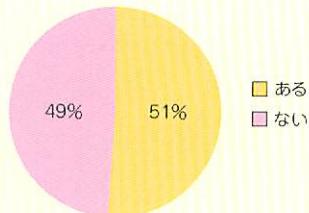
3年以内が  
約70%

## ●子育てで最も大切にしていることは？（複数回答）



健康であること、優しいことを育てるなどを大切にしている保護者が半数を超える

## ●他に参加している遊びの施設やグループはありますか？



参加していない親子が約半数でその親子は、親子登園を楽しみにしている

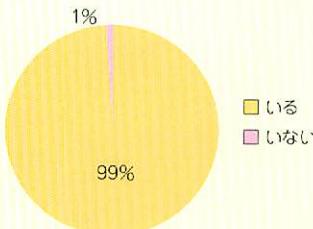
60%強がフレ幼稚園のような場を期待し、悩み相談を期待している人が10%いる

### アンケート調査より

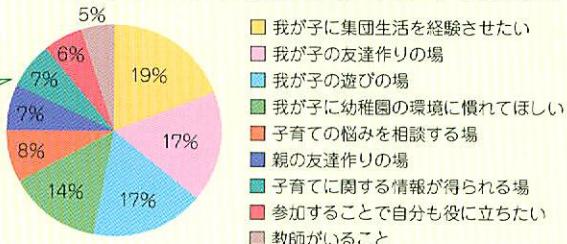
#### ★未就園児保護者が求める子育て支援

- ・我が子に集団生活を経験させたい
- ・我が子の友達作りの場
- ・我が子の遊びの場
- ・我が子に幼稚園に慣れて欲しい
- ・悩みを相談する場が欲しい

## ●子育てについて気軽に相談できる人はいますか？



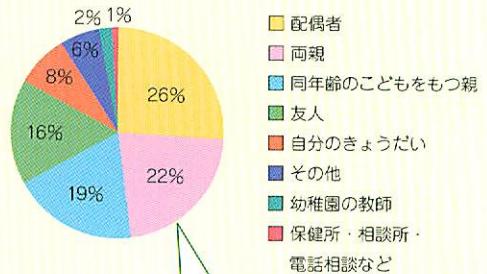
## ●親子登園に参加することでどんなことを期待しますか？（複数回答）



#### ★未就園児保護者のニーズにこたえつつ、意味のある親子登園にするためには…

- ・在園児も未就園児も共に成長できる親子登園にする
- ・未就園児保護者に公立幼稚園教育の良さを知ってもらう
- ・保護者の在り方について、ボランティアや在園児保護者の姿を見たり、触れ合ったりすることで、未就園児保護者の啓発を図る

## ●相談できる人、仲間は誰ですか？（複数回答）



相談できる人はいるが半分以上が家族と限られた中での相談相手である

在住して3年以内の人が約70%だから？

## 豊洲幼稚園では…

200名を超える在園児があり、親子登園の参加者が80組を超えることもある

### ●配慮点

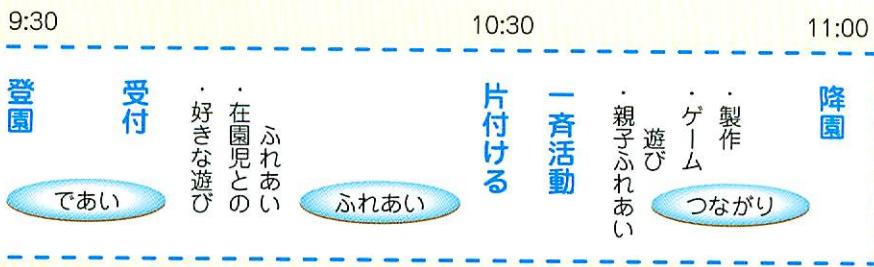
- ・在園児の日々の保育が保障され、在園児、未就園児が互いに育ち合えるために、適時性のある計画、実践を行う（時期・内容・実施場所等）

参考：幼稚園教育要領（平成20年3月告示）より

幼稚園の運営に当たっては、子育ての支援のために保護者や地域の人々に機能や施設を開放して、園内体制の整備や関係機関との連携及び協力に配慮しつつ、幼児期の教育に関する相談に応じたり、情報を提供したり、幼児と保護者との登園を受け入れたり、保護者同士の交流の機会を提供したりするなど、地域における幼児期の教育のセンターとしての役割を果たすよう努めること。

# 人と人がつながる 親子登園

## 親子登園 の流れ



であり

ふれあい

つながり

未就園児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就園児同士が会う</li> <li>在園児と会う</li> <li>教職員と会う</li> <li>他の未就園児保護者と会う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>親と一緒に未就園児の友達と遊ぶ</li> <li>親と一緒に在園児とかかわる</li> <li>親といろいろなふれあい遊びをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>親から少し離れ、未就園児の友達と遊ぶ</li> <li>在園児と自然にかかわるようになる</li> <li>次回の親子登園を楽しみにする</li> </ul>
未就園児保護者の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就園児保護者同士が会い、知り合う</li> <li>ボランティアと会う           <p>※本園におけるボランティアとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有償ボランティア</li> <li>父母の会のボランティア（在園児保護者）</li> </ul> </li> <li>教職員と会う</li> <li>在園児と会う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就園児保護者同士、話をするようになる</li> <li>教職員、ボランティアに親しみをもち話ををする</li> <li>ボランティア（在園児保護者）が自己発揮している姿に触れる</li> <li>我が子と遊んでくれる在園児に親しみをもつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就園児保護者同士、子育ての会話が活発になり、再会を楽しみにする</li> <li>教職員、ボランティアに子育ての悩みを相談する</li> <li>我が子と在園児のかかわりをつなぐ</li> </ul>
在園児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就園児との出会いに期待をもつ</li> <li>未就園児保護者と会う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就園児に親しみをもち、自分なりにかかわって遊ぶ</li> <li>未就園児保護者とかかわる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びの中で自然に未就園児を受け入れる</li> <li>未就園児の気持ちを受け止めながら、自分からかかわる</li> <li>未就園児保護者が認めてくれることで、自信をもつ</li> </ul>

## 幼稚園の役割

- 地域の未就園児親子が集まる場の提供
- 親子でのふれあい遊びの提案

- 相談、情報機能としての場
- 未就園児保護者への啓発

- 在園児とのかかわりの機会をもち、在園児、未就園児が互いに育ち合える場

月(回数)	5月(2)	6月(3)	7月(3)	9月(2)	10月(2)	11月(3)	12月(1)	1月(2)	2月(2)
対象	2、3歳児					うち1回 3歳児のみ		うち1回 3歳児のみ	うち1回 2歳児のみ
内容	親子でふれあい遊び（おしゃをのみにきてください） 親子で一緒に遊ぶ（雪で遊ぼう！、2・そりあそび） 親子制作（鬼のお面づくり） 親子で園児とかかわるなど園内で自由に遊ぶ	年少児の劇を見る 親子で園児とかかわるなど園内で自由に遊ぶ	年少児の劇を見る 親子で園児とかかわるなど園内で自由に遊ぶ	親子でふれあい遊び（だいこん抜き・コシコシコシコシ） 親子で園児とかかわるなど園内で自由に遊ぶ	親子でふれあい遊び（よーいどん・玉入れごっこ） 親子で園児とかかわるなど園内で自由に遊ぶ	親子でふれあい遊び（よーいどん・玉入れごっこ） 親子で園児とかかわるなど園内で自由に遊ぶ	親子でふれあい遊び（よーいどん・玉入れごっこ） 親子で園児とかかわるなど園内で自由に遊ぶ	親子でふれあい遊び（よーいどん・玉入れごっこ） 親子で園児とかかわるなど園内で自由に遊ぶ	親子でふれあい遊び（よーいどん・玉入れごっこ） 親子で園児とかかわるなど園内で自由に遊ぶ

年間20回  
(平成20年度)

であり

ふれあい

つながり

# すごいぞ親子登園

## 未就園児にとって

- ・見たことがない遊具や遊びを見て大きな刺激となった。
- ・親子で触れ合ったり、在園児の遊びに参加したり、いろいろな遊びが経験できた。
- ・たくさんの中年齢の子と遊ぶ楽しさを味わった。
- ・在園児に優しくされたり、リードしてもらったりして親しみをもてた。
- ・幼稚園に来て楽しい思いがたくさんでき、毎回の親子登園が楽しみになった。
- ・幼稚園の雰囲気を知り、先生という存在が安心できるものだと知った。
- ・幼稚園に入園することを楽しみにするようになった。



## 未就園児保護者にとって

- ・我が子と向き合う時間と場がもてた。
- ・同年代のこどもをもつ親同士で知り合い、コミュニケーションをはかることができた。
- ・子育ての悩みや不安を教師やボランティア、同年代のこどもをもつ保護者に話すことで解消できた。
- ・在園児とかかわり、在園児の姿から我が子の成長を楽しみにできるようになった。
- ・あいさつが交わせるようになった。
- ・いろいろな人や在園児とかかわり、地域とのつながりができた。
- ・幼稚園教育に触れ、入園への期待がもてた。

(親子登園 最終アンケートより)

であり  
ふれあい  
つながり

## 在園児にとって

- ・未就園児と触れ合うことで年長者としての意識をもつことができた。
- ・自分が我慢する体験ができ、優しい気持ちが芽生えた。
- ・未就園児が喜んでくれたり未就園児保護者に認めてもらったりすることで自分の成長を感じ、自信をつけた。
- ・未就園児のことを想像して場を用意したり、接し方を考えたりすることができた。
- ・未就園児とのかかわりを積み重ねることでいろいろな人を思いやる気持ちが育った。
- ・自分たちの遊びの刺激となった。



- ・こどもたちの豊かな育ちを促すために未就園児、未就園児保護者の実態を知り、子育て支援として何ができるか学び合うことができた。



- ・未就園児とのかかわりを計画、実施し互恵性のある教育活動になった。また、未就園児、在園児双方に意義のある保育の大切さを認識できた。
- ・教師や在園児保護者の教育力を活用することができた。
- ・未就園児保護者に幼稚園教育を知ってもらう機会となった。
- ・未就園児とのかかわりを通して、普段は見られない在園児の姿が表出され、成長を見られた。
- ・公立幼稚園教育のよさを知ってもらうことができた。
- ・地域の子育てセンター的役割を果たせ、今まで以上に地域に開かれた幼稚園となった。
- ・発達に合わせた教材の研究ができた。

## 幼稚園にとって

## もっと素敵なお子登園に

- ・在園児数と参加者人数が多いので、年齢別の会を多く設けたり、遊びの場の確保を計画的に行ったりしていく。
- ・初めて参加する人が誰か見てわかるように名札の色などを工夫し、未就園児の保護者同士が互いに声をかけやすく、親子登園を経験した先輩保護者が新たな親子を仲間に入れていくことができるようになる。
- ・ボランティアの方が、さらに自分の力を発揮できるようにする。
- ・園児の実態に沿ったかかわりを丁寧に行い、互恵性のあるものとなるようにする。
- ・親子登園の取り組みをきっかけにさらに地域の中の子育て支援施設としての幼稚園を根付かせていく。

### ●ご指導いただいた先生方

○桜美林大学教授 井上千枝美先生  
○江東区教育委員会指導主事 鶴田誠二郎先生

### ●研究に携わった教職員

○園長 笠原雅子 ○主任教諭 河原宏子 ○教諭 松澤伸枝 ○教諭 奥寛之  
○教諭 佐藤香奈 ○教諭 小石川真麻 ○教諭 佐藤春菜 ○教諭 菱川沙由理